



華麗なる図書館利用者のための

Cool Librar

クーリブラー

講座

カジのうら若き青春黙示録

文/カジ

真剣な面持ちで臨めば、

世の中だいたいのが許されるっぽいのだ。

【前回までのあらすじ】

学園のマドンナ千絵ちゃんの隣の席を奇跡的に手に入れ、中学2年の春を謳歌していたカジ少年。しかし、わずか1か月で席替えという正念場を迎える。再び千絵ちゃんの隣の席を奪取すべく、「ドラフト席替え」を提案。ドラフト席替えとは、

①黒板に全席の配置を書いて、

各自希望の席に名前を書く。

②希望者が1人だけなら決定。

かぶった場合はじゃんけん。

③それを2巡、3巡と繰り返す。

④全員決まれば終了。

さて、この提案が吉と出るのか…

ドラフト席替え1巡目。

生徒たちはなだれ込むように黒板に向かい、各々希望の席に名前を書き込んでいく。人気はやはり後ろ側。「俺ここにしよう！」

「あ、取られた！」などの声飛び交う中、その様子をじつと見据えるカジ。

「まだだ…」

実は千絵ちゃんと隣の席になるために、

カジはある秘策を考えていた。名付けて

「閉店間際、ホタルの光大作戦」だ。

☆狙い目は皆が選ばない前の方の席。

☆1巡目終了直前に名前を書く。

☆カジが2人分の名前を書く。

☆とにかく1巡目で決める。

極めてシンプルな作戦であったが、千絵ちゃんの隣の席を狙っている男どもがわんさかいるこの状況下においては、このチープな作戦こそが命なのだ。

「そろそろ1巡目終了します」

学級委員から終了予告が発せられる。が、

カジは動かない。

「まだだ…」

書き込みを終えた者たちが席に戻り始め、

ほとんどの生徒が席に着いた頃、

「1巡目終了です！」

終了宣言と同時に席を立ち、おもむろに黒板に向かう。皆が不思議そうに見つめる中『千絵・カジ』と名前を書く。インド人もヒックリ。

完全なる後出しジャンケンである！

しかし、カジがあまりに堂々とそして毅然たる態度だったため、誰一人文句を言う者はいなかった。この瞬間、カジの勝利があっさり確定。見事千絵ちゃんの隣の席を守り抜くことができたのである。盛り上がり欠ける展開だがせむしなし。

